

四川大学-香港理工大学 災害復興管理学院においてセミナーを開催しました/ 第9回水と災害に関する専門家パネル会議(HELP)にて発表しました(2017/5/16-18)

テーマ：国際連携、APRU, マルチハザード

場所：四川大学-香港理工大学 災害復興管理学院

5月16-17日に当研究所の今村文彦所長と泉貴子特任准教授（情報管理・社会連携部門）が四川大学-香港理工大学 災害復興管理学院を訪問し、Gretchen Kalonji 学院長と今後の研究・教育の連携について協議するとともに、学生や教員に、当研究所の紹介と東日本大震災の被害実態（今村所長）、APRU マルチハザードプログラムの活動（泉特任准教授）について講演しました。その後、活発な意見交換も行われました。その中で、Kalonji 学院長は、災害医学、災害教育など社会科学に加え、特に、地すべりなど山間部に発生する災害、アーカイブ、災害に関する博物館・記念館、など如何に被災地を支援するかなどの分野での共同研究・連携強化を希望されました。

5月17日には、2013年に発生した四川地震（芦山または雅安地震）の被災地を訪問し、その後新しく建設された小学校における防災対策・活動について紹介を受け、さらに昨年開設された地震記念館を視察しました。地震の後に新たに移転・建設された小学校には、十分な広さの避難経路や集合場所が備えられ、「防災体操」など独自の防災教育が取り入れられていました。また、2016年4月には「4.20 芦山強烈地震記念館」が開設され、当時の災害対応や復興の様子を示す様々な写真や資料が展示されていました。被害実態や支援・復興などを体系的に整理し地震の記憶、経験、教訓を将来へ残そうとする大きな努力が伺えました。

5月18日には、第9回水と災害に関する専門家パネル（HELP）会議に泉貴子特任准教授が出席し、「水と災害に関する国際研究ネットワーク設立に関するセッション」にて、APRU マルチハザードプログラムの活動とネットワークの意義について発表するとともに、その後のパネルディスカッションに参加しました。様々なネットワークが存在する一方、地理的に十分網羅されていない地域が存在し、地域の大学の参加が少数であるなど課題も明らかとなり、今後、そうした課題に対応できるような新たな枠組みなどの必要性について議論がなされました。

今回の訪問・意見交換によって、四川大学と当研究所の関心が高い共通の分野が明らかとなり、今後の連携や共同研究を始める第一歩となりました。



今村所長の発表



泉特任准教授の発表



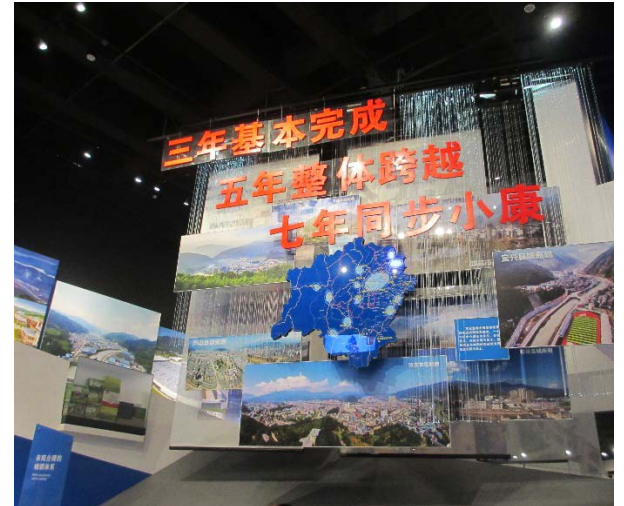
雅安の視察を行った第二小学校の教員の方々と



雅安にある新たに建設された小学校の避難経路



4.20 芦山強烈地震記念館



4.20 芦山強烈地震記念館での展示



第9回水と災害専門家パネル会議



災害復興管理学院の前で参加者と泉特准教授